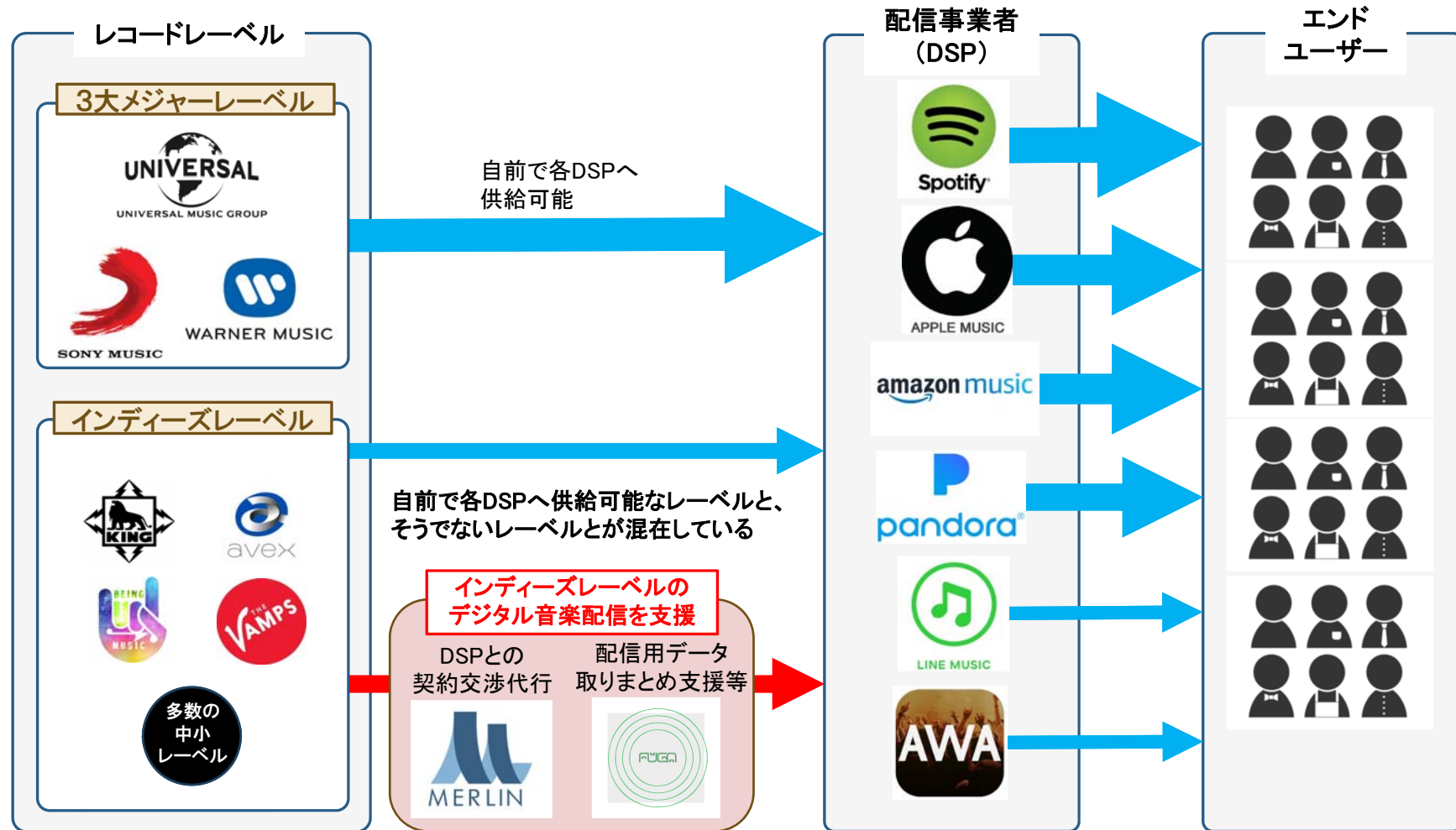




マーリンジャパン ゼネラルマネージャー 谷口 元 2019年1月30日

デジタル販路における世界の音楽業界構造(コンテンツが届くまでの経路)



音楽コンテンツで外貨を稼ぐための取り組み

『職人信仰＝良いモノを作っていればきっと世間は認めてくれる』 からの脱却

- ① 良いモノ(良い音楽)を作っていれば売れるはず。
海外で日本の音楽が売れていないのは、海外の耳には認められていないから。
↓
- ② 海外でも認められる可能性あるかもしれない。
認められる可能性がある『良いモノ』であるなら、売る努力しなくても大丈夫なはず。
↓
- ③ ある程度は売る努力をしなくてはいけないかも。
しかし可能性の程度がわからないのにコストをかけるのは難しい。
↓
- ④ やって見たら世界で認められた。
しかも初期投資に見合う以上の結果に。
やはり日本の音楽は世界でも通用するものだった。

今ココです

MERLINとは

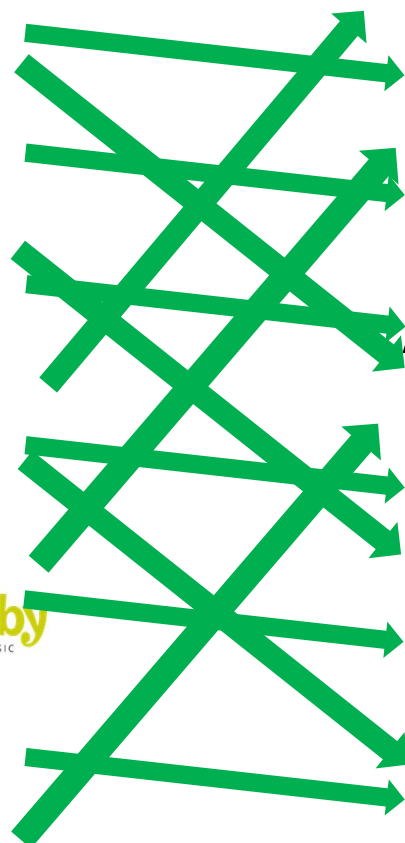
2007年に設立された、独立系レーベルのための世界的なデジタル権利管理団体。
非営利の会員組織として世界中のインディーズ・レーベルの利益のために活動。

DSPがデジタル配信サービスを行うにあたり、世界の何千ものインディーズ・レーベルと契約しなければならないという煩雑さと、それによる市場分断化の影響の結果、インディーズ音楽は、革新性、多様性、市場における高い市場価値を有しているにもかかわらず、メジャーに劣る二流の地位に追いやられる危険性を常に持つ。

MERLINは、『集团的交渉による効率的なライセンスの枠組み』を提供し、会員社が新しく成長見込みの高い収入源(ネットの世界)に効果的にアクセスでき、その価値が適切に評価されるようにする。

MERLINの無い世界

各レーベルは各DSPと個別に厳しい契約交渉をする



MERLINが介在すると

各レーベルは、MERLINが既に持っている各DSPとの枠組みを利用できる



MERLINの枠組みやその
便利さを紹介するために
2016年10月に開業。
日本国内では考える必要
のない海外での常識やリ
スクを伝えている。

マーリンジャパンは



原盤の
利用許諾

原盤使用料の
徴収

配信事業者



原盤のデジタル利用に
ついての権利委託

- ・サービス紹介
- ・契約実務サポート
- ・英語による交渉

MERLIN
JAPAN

原盤使用料の
分配

インディーズ・レーベル

世界中のユーザー

海外展開する上での問題点

MERLINは音源データの(DSPとの)授受には関与しないため各レーベルは直接(あるいはFUGAなどのデリバリーサービス会社経由で)音源データをDSPに納品する。

音源データには、音源ごとのタイトル、アーティストや権利者情報(『メタデータ』と呼ばれる)が添付される。この情報がないと権利者に経済的還元ができないが、**日本のレーベルにおけるメタデータ整備がなされていないのが最大の問題。**

メタデータ整備が遅れている理由は、

- ① 日本語のメタデータがある場合であっても英語版が不在。
- ② 日本では歴史的にDSPがサービスの一環でメタデータを整えてくれていた為に、レーベル側にメタデータが蓄積されていない。
- ③ 海外展開するための国際基準のメタデータ(DDEX)が国内では不要であった。
- ④ 日本語のタイトルを英語化する場合の権利者の意向確認など、単純な英訳では済まない煩雑さ。

海外展開する上での問題点



指示されたサービスに
楽曲データを提供

デリバリーサービス

- ・楽曲データを納品
- ・納品先を指示
- ・手数料支払い

インディーズ・レーベル

楽曲データを
直接納品

配信事業者



世界中のユーザー

メタデータを整備するために

- ① 日本語のメタデータがある場合であっても英語版が不在。
- ② 日本では歴史的にDSPがサービスの一環でメタデータを整えてくれていた為に、レーベル側にメタデータが蓄積されていない。
- ③ 海外展開するための国際基準のメタデータ(DDEX)が国内では不要であった。
- ④ 日本語のタイトルを英語化する場合の権利者の意向確認など、単純な英訳では済まない。

☆ ある程度のクリエイティブな感覚を持って(よって権利者の意向に沿って)英語版DDEX準拠のメタデータを作成するために障害となっている経済的なデメリットの解消が急務。

⇒メタデータの作成・運用管理業務への支援？